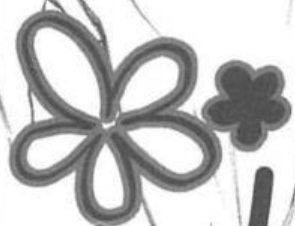
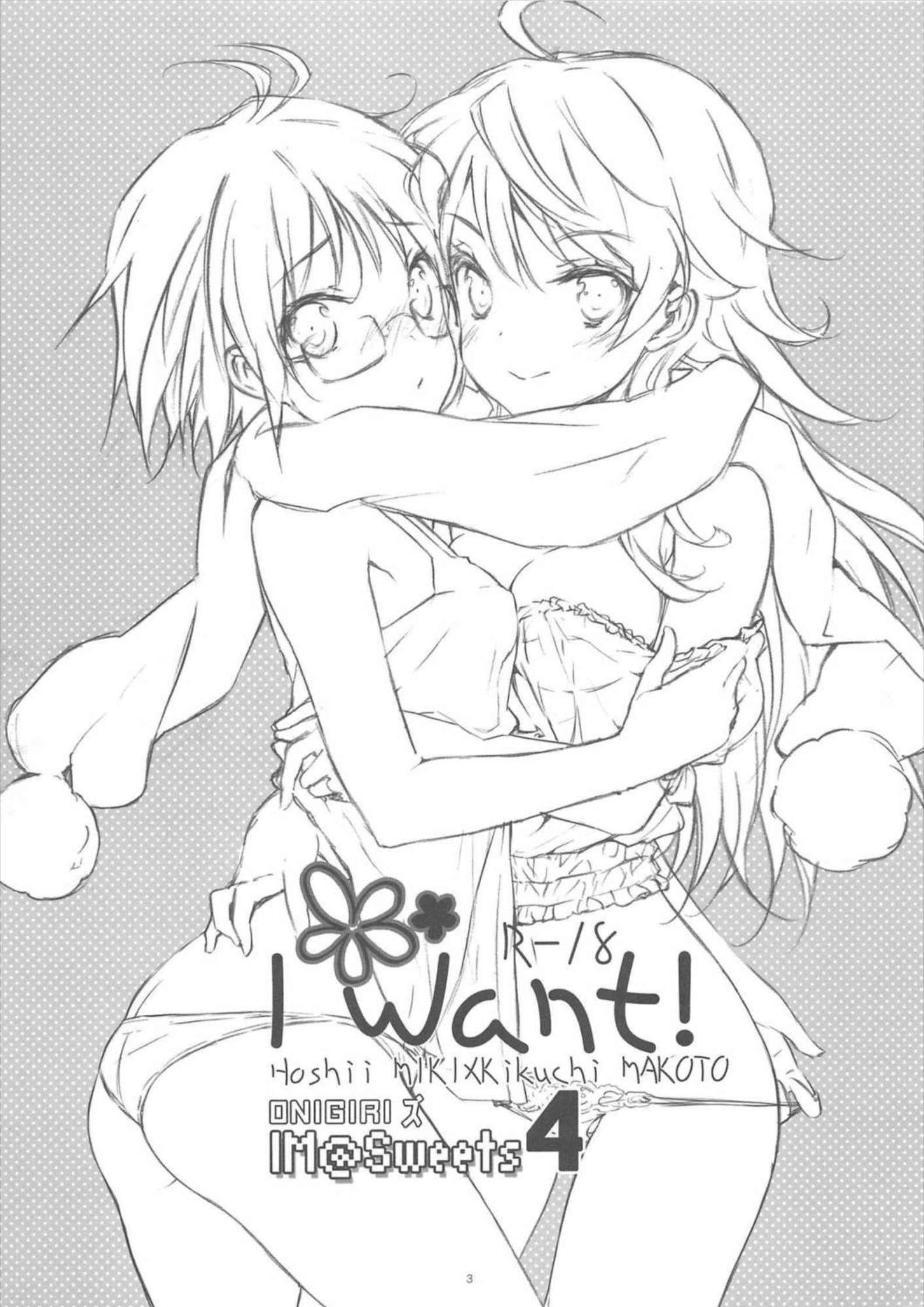


R-18

I want!

Hoshii MIKI x Kikuchi MAKOTO

ONIGIRI ㄨ
In@Sweets 4



R-18

I Want!

Hoshii MIKIKIKUCHI MAKOTO

ONIGIRI X

Me@Sweets 4

奥付

■IM@SWEETS 4 | WANT!

■発行

ONIGIRIズ

■発行者 CUTEg, Hypar

■発行日 20100927

■印刷

DONGBO PRINTING

連絡先

サークルHP : <http://blog.livedoor.jp/onigiriz>

Hypar : hypar@hotmail.com

CuteG : yoongi.km@gmail.com

FOR ADULT ONLY

本同人誌の無断転載、複製およびネットワークへの配信などをご遠慮ください。



今日はたくさん
いい買い物をしたの！

ははは…
よかったね、
美希

それにしても、
この買い物の量がすごいね…



真くん、ちよつとミキの
お家に寄って行かない？
今日のお礼…したいの！

本当！？

真くん！
大好き！

うわっ、美希、
くつつくな！



えっ？お礼？
そんな…いいよ

ひっぱら
ないぞー



まゆい



今日は付き合っ
てくれてありがとうなの！

荷物まで持ってくれて、
悪いな…

いや、いいよ
どうせ、暇だったし

ほくも美希と
買い物するの楽しいし







だって…

真くんがかわいい
すぎるのが悪いから…なの

みて…

ミキの…

真くんのせいで、
こんなになって
しまったから

真くんが責任とって

きれいにしてね…

もうこんなに濡れてるの…

びゅん



んっ

真くん

そこ…

気持ちいい…

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ



んっ

え…?



?



真くん…

ミキね…もう、
がまんできなくなった…



これを真くんに
使おうと思ってるの！

あつた！



ここにはるはず
なんだけいな…



そんなの
入るわけないよ！

**無理無理
無理だよ！**



そんなものどこで
手にいれたのよ！

これ？
小鳥に
借りてきたの！

おねえちゃんに任せて！
とっておきのもの
を貸してあげるわよ！



なにいつてるの？
これ、つけるの、
真くんのほうだよ？





あーっ
♡

あーっ
♡

んっ！はあん！

真ん中
♡

気持ちいい！

そろそろ
行きそうなの
もっと！もっと
入れて真くん！

あーっ
♡

あーっ
♡

あーっ
♡

んっ
♡



……真くんのせいで、
ミキいっぱい気持ち
よくなったし

またお礼しないとね

え？……



小鳥にこんなにも
もちったもの

全部使ってだつぱり

お礼するよ？



うわああああ
ああああああ

みきおーじってなにこ？

いつもの765フロの事務所。

事務所の隅っこにある共用パソコンの前には真が座っていた。真が座っているイスの後ろには美希がいた。美希はやや腰を屈めて真の頬に自分の頬が届くような距離でモニターを眺めていた。

「だめだ…重すぎでまったく見れないや…」

真が2〜3秒表示されて、30秒止まり、また2〜3秒表示されては止まってしまった、ニコニコ動画の画面を見ながら困った表情をする。マウスを何回もクリックしたり、キーボードをカタカタと叩いてみただけで、相変わらず画面は2秒ぐらい進んでは止まってしまふ。

「どうしたの？真くん？パソコンをそんなに乱暴に扱うと壊れるよっ…」

いつものまにか真たちの隣には小鳥が来ていた。

「…あ、小鳥さん。わりい…でも、なんかネットが異常に重くて…困ったな…」

真の話を聞いていた小鳥がなにかを思い出したように少々大きめの声を出した。

「そっついえば、前、二人で収録した番組ってニコニコ動画で配信だったわね？今日だったの？」

「そうなの。美希はパソコンよくわからないから真くんをお願いして一緒にみようと思ったのに…」

美希が残念そうな表情をする。

「…ボクの家にもパソコンはあるけど、そこまで行くと番組もう終わってしまうんだろっうな…」

真も困った表情でそっつぷやいた。すると小鳥が何かを思い出したように手をぼんと叩く

「そっくだ…」のビルの向こう側にネットカフェがあるの。あそこで見る

のはどうかしらっ？」

「あ、そっか！そっついえばあったねー！
くっくっくっ。」

美希が真のシャツをひっぱる。

「ねえねえ、真くん、ネットカフェって何？」

「……へ？」

美希の質問に真と小鳥がやや驚いた表情で美希のほうに振り向く。
「み、美希ちゃん？ネットカフェって知らないの？」

「うん。初めて聞くの！」

美希の無邪気な笑顔で二人はがっくりと肩を落とした。

「あのね…美希、ネットカフェってのは…」

小鳥と真が美希にネットカフェに関して一通りの説明をしてあげた。
「へえ、そっういところなんだ、なんか面白そうだから行ってみたいの！」

美希がなぜかネットカフェの話に感心しているとき、事務所の時計を見た真が声をあげる。

「あ、やばっ！もうすぐ始まる時間だ。小鳥さん、悪いけど、ネットカフェの代金貸してくれませんか？」

「わかったわ。このぐらいなら十分かな？」

慌てている真の話を聞いた小鳥が自分の財布から1000円札を2枚出して真に渡した。

「あとで経費で処理するからレシートは忘れないでね」

「わかりました！じゃ行ってきます！」

小鳥から1000円札を受け取って急いで事務所を出る二人の後ろ姿を見ながら小鳥がほっとする。

「…もしかして気づかれてないよね…？」

小鳥がちらつと自分のパソコンの画面を見る。

そこにはニコニコ動画をダウンロードするツールの画面が映っている。おそろく765フロの回線が重いのはこのせいだろう。

★ ★ ★

★ 弾幕にちよつと面食らった美希に真がコメント機能について簡単な説明をする。

「すごい！マンガ本がいっぱいあるの！」
「ちよつと！美希！ほかのお客さんに迷惑だから静かにして」

店員と手続きをしていた真がはしゃいでいる美希に静かな声で注意をする。

「はい」

しかし、美希はやる気ない返事をしたが、すぐにドリンクバーを見てまたはしゃぎだす。

「すごい！美希の大好きなカルピスウォーターが飲み放題なの！」

「美希、お願いだから静かにして…あつ、すみません。はい。」

ペアシートでお願いします」

店員さんにレシートを受け取った真が美希の腕をつかんでレシートに書かれている番号の個室に入る。

中はよくあるタイプの座敷のペアシートだった。スペースも意外と

広い。二人は靴を脱いで中に入った。美希が先に入り壁際に座り、続いて真はパソコンの前に座る。

パソコンの前でキーボードやらマウスやらを使いやすいように配置している真の肩に美希が寄りかかる。二人で並んで座ると大体美希はこうして自分によりかかってくる。いつものことなので真も特には気にせずパソコンを操作していく。

真がキーボードのキーをカタカタと打つとすぐに画面に動画が表示された。ちよつど番組のタイトルが表示されている。

「それでは、今日の最初のゲストは話題沸騰中の新人アイドル菊地真ちゃんと星井美希ちゃんです！」

この紹介と共に二人が仲良く手を握ったまま入場する画面が表示されると、一気に画面が見えないほどの

みきま「サァー……（△）……の弾幕が広がる。

「真、真クン？なにこれ。画面が見えないの」

「へえ、じゃ、これはこれを見てる人たちが書き込んでることだよね？」

「そう。だから、すぐにファンの反応とかわかるってわけ」

「そつなんだ」

二人のトークにコメントは結構沸いたいた。新人なのにネットの人たちの反応は悪くなかった。その時、この質問を勘違いした真が変な答えをして、みんなが大爆笑をするシーンが表示される。画面に面白がる人たちのコメントが画面に一気に表示される。

「きやははは！何度見てもこの真クン面白いの……！」

いきなり大きな声で笑い出す美希に真が真っ赤な顔になって美希の口を手で押さえ、低い声で注意をする。

「しつ！美希！静かに！店員さん来ちゃうよ……」

「つぶぶ……」

もがく美希が静かになってから真が手を離してもう一回、釘を刺すように言った。

「お願いだからここでは静かにしてよ、もう……」

真の話に美希は、ちい、を軽く舌打ちをして、またパソコンの画面を見る

やがて、トークも終わり、二人がステージに移動し歌を歌うシーンが出た。弱30分の短い番組だったけどファンの反応も良く、なにより大きな失敗もなく真は内心ほっとしていた。

「……どうしようかな。……って基本1時間からだからまだ時間あるんだよね……」

番組も終わり、あまった時間をどうするか悩む真に美希が静かな声で話をかける。

「ねえねえ真クン。さつき動画みてたらずっとみきまことか百合とか知らない言葉が出てたよね？どついう意味かわかる？」

「さあ？みきまこはたぶんボクたちのことだよな？…大体何なのかわかるけど、百合ってなんだろ」

「ちよつと首をかしげる仕草をしていた真が、なにかを思い出したようにパソコンのキーボードを打ちはじめる。

「ちよつとネットで検索かけてみようか」

真がとある検索サイトに「みきまこ」、「百合」という単語を打ち込むと画面にざつと検索結果が表示される。

「女性アイドル百合画像 みきまこ偏」というサイトが一番上に表示されている。真がそのサイトをクリックする。

画面が転換され、画面に無数の画像が表示される。そのサイトは普段の美希と真の放送出演で仲良くしている写真を集めているサイトだった。中には美希が真の頬に軽くキスをする写真もあつたり、仲良く腕を組んでいる写真とかも乗っている。

それだけなら熱心なファンのサイトだと思われるかも知れないが、問題は写真の横についているコメントに、人は絶対付き合っているに違いない！、とか、これ、絶対できてるよ！、などなんとも言い難い妄想展開の話がついている。

「うわ…この人、ちよつと…熱心に見てくれるのはありがたいけど…」
「へえ、事務所とファンには秘密にしてるのにどうしてわかったのかな？」

真はちよつと気持ち悪そうな表情をしていたけど、美希はニコニコ笑いながら画像を眺めながらそんなことを言った。

「…美希も冗談はやめてよ、もう…」

「…えっ？」

真の話に美希の顔がいきなり強張る。

「…真くん、さつき冗談っていったの？」

「だ、だって、僕たち、女同士だし、付き合ってるわけじゃないじゃないに言ってるんだよ」

真が慌てて言い訳をすると美希はさらにムツとした表情になる。

「…じゃ、真くんは今まで美希とやったこと、全部冗談とかお遊びだったってことなの？ひどいよ…」

「そこまで言つてないよ！そして、それは全部。美希がボクを襲つて…」

「…ふーん、じゃ、真くんは美希に襲われたから好きでもないのに美希とエッチなことしてたんだ…」

「ちよつと…そ、そんなんじゃないよ…」
話の流れが変な方向になっていることを気づいた真が必死に言い訳を続けるけど美希の表情はどんどん暗く、そして固くなっていく。

「…真くんがそういうなら、美希にも考えがあるの…！」

美希はそこまでいって、いきなり真の肩を掴んでそのまま押し倒す。床はマットになっていて、大きな音は出ない。パサッとする軽い音が出るだけだった。そしてそのまま美希が真の唇を自分の唇で無理やりふさぐ。

「うっ…」

真が美希の体を押し戻そうとする。しかし美希の舌が真の唇を嘗め回すように動くと、真の腕から力が抜けてしまう。

美希は自分の舌で真の唇の隙間を舐めながら真の口の中に進入しようとしている。真は口を閉じたまま抵抗していた。しかし、その抵抗もあまり長く続かなかつた。真の浅く開いた唇の中に美希の舌がするりと滑り込んでいく。

くちゅっ…くちゅっ…

互いの舌が絡み合い、唾液が混ざる音が静かに響く。

「んっ…ふっ…あっ」

しばらく美希が執拗に真の口の中を嘗め回していく。美希の舌が真の舌に、歯に、歯茎に、内壁に触れるたび真の体がぴくんと反応する。しばらく真の口の中の味を楽しんでいた美希がやがて口を離れた。

「やっぱり、真くんっておいしいね」

「ニツツと笑いながら美希が舌なめずりをする。真はその仕草になんともいえない威圧感を感じていた。」

「…もっともっと、真クンのいろんなところ味わってみたいな」

美希がゆっくりと手を伸ばして、真のシャツの中に自分の手を入れる。

「はっっ…」

真は何もいえないまま美希のされるままに自分の体を任せてただ甘い吐息を漏らすだけだった。

美希の手は真のシャツの中からブラ越しに真の胸を触ろうとしていた。美希は真の胸を包んでいるものが真がよくしているスポブラということに気づいてちよつと怒ったような顔をして真の耳元に低い声で「…もう、真クン、またこんな子供っぽい下着してるの。ちゃんとかわいい下着しなさいってプレゼントしてたじゃない」

「だ、だって、それはちよつと恥ずかしくて…」

真の話がまだ終わってもないのに美希が無理やり真のシャツの裾を掴んで、首元まで上げる、そしてスポブラも隙間に指を入れて上にずらすようにしてあげると真の小さなふくらみがあらわになった。

「み、美希…ちよつと…」

「ふふん、ちよつぱり、真クンのおっぱい、小さくてかわいいの」
そう言つて美希が真の乳首を手で軽くいじる。

「はっっ…」

真の体がピクンと小刻みに反応する。

「美希のいうことちゃんと聞かない真クンはこうしてあげるの」
そして美希が指に力をいれて乳首をひねりあげる。

「きやうっ…！」

真はチクツとする痛さに大きな声を出してしまった。すると美希は自分の手で真の口を押さえて耳元にこうささやいた。

「さつき、真クンが言つてたよね？大きな声だと店員さん来ちゃうつて…見つかつてもいいの？」

真はちよつと涙汲んだ顔で首を軽く横に振る。

「…そうなの。見つかつたら大変だもんね。新人アイドルがこんな場所で行なうことしてるなんて世間に知られたら…ね？」

そしてそのまま真の耳たぶを軽く噛む。

「はっっ…」

真の口を押さえた美希の指の隙間から切ない声が漏らされる。しかしさっきの美希の言葉のせい、その声の外までは漏れないほど静かだった。

美希の舌が耳たぶから首筋、そして乳房へとゆっくりと真の体を這いまわす。やがて、美希の舌が真の胸のほうに着いた。

そのまま舌先で乳首の周りから円を描くように乳輪をなぞる。

「んっ…うっ…」

真が甘い声で息を漏らす。その声を聞いた美希はニヤツと口元を緩めて真の乳首を口に含む。

「あっ…はうっ…んっ…！」

美希の手で塞がったままの真の声を楽しみながら美希が舌を立て乳首を転がす。敏感な部位が直接刺激され真は体を大きくピクンと跳ねた。

それから美希は乳首を吸ったり、甘噛みしたり、嘗め回したりとじっくり愛撫する。

しばらくして口を離れた美希は真の口を塞がっていた手を離れた。

「はあ…はあ…」

真が空気を求めるようすは「すーはと大きく深呼吸する。

「さて、真クンのニこはどうなっているかな？」

今度はゆっくりと真の下半身のほうに手を伸ばす。

スポンのベルトをはずし、スポンのボタンも一気にはずした。

真の手が一瞬抵抗するように美希の手首を掴んで、押し戻そうとするが、美希は簡単にその手を振りほどく。

「だめ…お願い、美希…もうそんなこと言わないから…許して…怖いよ…」

「…だめだよ、真クン。ミキは今日真クンにすごく傷つけられたから、もう二度と真クンがそんなこと言わないように体で覚えさせてあげるの」

美希がクスツと笑って真のズボンのチャックを下ろして、そのままズボンをすねのところまで乱暴に下ろした。

真の下着はブラと同じ地味な黒い色の地味なパンツだった。そのパンツの上を美希がゆっくりと手を伸ばして触る。

「…あはは。真くん、結構敏感なのね。もうこんなにぬれてる」

パンツ越しから人差し指の腹を縦スジに沿って往復させる。くちゅつとした音で真のあそこがすでにぬれているのを知らせていた。美希がそのまま指を動かして、パンツの生地を食い込ませていく。

「あつ…んつ…はうつ…」

どうしようもなく声を漏らしている真の耳元に美希がそつとささやくように話かける。

「どうっ？真くん、気持ちいいでしょ？真くんをこんなにさせるのはミキしかないんだから…」

さらに、美希がパンツの上からクリトリスをいじる。

「ひゅっ…」

まるで電流が流れたように真の体がピクンと痙攣する。

「いい反応だね。真くん。でも、どんどん声が大きくなってよ？店員さんに見つかるかもしれないよ？」

美希のその言葉に真がはつとなんて手で自分の口を押さえる。その姿を見て美希がまだにやりと笑いながら、真の下半身から手を離す。

「真くん、もう興奮してたまらなくなっちゃったよね？表情見ればわかるの。だからミキがちやんと真くんをいかせてあげるね」

美希が真のパンツをずらした。あらわになった下半身の産毛を撫でる。

「真のニ、さらさらして気持ちいいの」

そしてそのまま、ゆっくりとスジの部分に沿って指を往復させる。

「ひゅっ…うつ…ふっ…」

直接下半身から伝わる快感に大きな声を出しそうになるが、真は必死に手で口を押さえたまま声がもらさないようにしている。

美希はそのまま指を下へと動かし真の割れ目に指を入れる。

美希が指を曲げたり伸びたりで真の中を愛撫する。美希の指が粘膜に触れると、真の体がピクンピクンと痙攣する。

くちゅつ…くちゅつ…

指と真の中から出ている愛液が絡む音が二人だけに聞こえるぐらいの静かさで響く。

「あつ…はうん…ああつ」

抑えた手の平の隙間から真の喘ぎ声が漏れている。そのとき、いきなり美希が指を止める。すると真がなきそうな顔で美希の首に手を回しながら美希の耳元にささやく。

「ああつ…美希…美希…お願い…もつと…」

真の哀願に近いささやきに美希がクスツと笑いながらゆっくりと低い声で聞き返す。

「…お願いしてもつとなにをしてほしいわけ？」

「……………」

美希の言葉に真の顔が赤くなったままなにも答えない。

「ちゃんとやってくれないと、ミキ、なにもわかんないよ？」

ミキはもう一度クスツと言って真の髪を撫でながらも一度言う。

「…ちゃんとやってみてよ。真くん。どうしてほしいの？」

それからしばらく赤くなった顔のままなにも言わずにいた真がゆっくりと口をあける。

「ほ、ボクを…も、もつと気持ち…よくして…いかせて…お願い、美希…」

だだどしい真のおねだりに美希が口元を吊り上げて微笑む。

「よく、できました。なのー」

美希はそのまま真の唇の中に自分の舌を入れて真の口の中を愛撫する。同時に止まっていた指をもう一回動かす。

今回は執拗に真の気持ちいいところを刺激していく。美希の指が動いたたびに真は快感に体をよじる。快感でなんとか声を出そうとするが口の中は美希の舌で掻き回されているせいでまともな声が出ない。

「ウツ…くっ…はうっ」

「どう、真クン、行きそうなの？いつてもいいよ？」

美希の指の動きがどんどん早くなる。真に伝わる快感がその速度の比例してどんどん大きくなっていく。

やがて真の頭の中が真っ白になり、絶頂に達した。塞がっている口から「うっ…」という小さな声が漏らされて、ぐったりと全身の力が抜けたようにマットの上に倒れた。

「…ふっ、真クン。もういったの？」

美希は自分の指に絡まれている真の愛液を恍惚な表情で見ている。そして舌を突き出し、指を丁寧になめていく。

「…真クンのこれ…すくおいしいの…」

そして、今度は倒れている真に近づいて耳元にこうささやいた。

「…真クン、もう一度そんなこと言おうと、美希本当に怒るから…今度はこれで見逃してくれるけど、次からはちゃんと美希のこと好きって言わないとだめだよ？」

真が力なく顔を縦に振る。そんな真に美希がくすくす笑いながら頬に軽くキスをしてあげた。

「まあ、でも今は真クンだけ気持ちよくなったんでしょ？」

「えっ…？」

美希が今度は自分のスカートの脱いで下着姿になった。

「ちゃんと小鳥からもらった分、ここで遊ばないと。まだまだ終わらすつもりはないよ。今回は真クンがミキを気持ちよくしてあげてよそしたらさっきの言葉。許してあげるから…」

—終わり

緊急企画

-THE IDOLM@STER 5th ANNIVERSARY The world is all one!!”に
行ってきました!

「泣くぎゅうに変態淑女のミンゴス」
HyperPもCUTEGPもくぎゅうの泣いてる姿に
もうメロメロ状態でした。
くぎゅうがみんなをよぶとみんなくぎゅうに
飛びついたりもらい泣きしてるところが
本当にもう…w
そんな中、ミンゴスは会場みんなに
くぎゅうの涙がついたよーアピール。
あんた何者だw

「シャララ」
破壊力すげ…なんでこの二人こんなにかわいいんだ。
振り付けも歌もすべてかわいい。こんなにかわいい
人妻と三十路(え)がいていいものなのかと真剣に思った。

「隣に…」
キングの歌唱力にただ唾然になるばかり。
二人とも口を開いたまま唱が終わるまでずっと唱を聴いて
ました。すばらしい歌声でした。
本当に神かかっていると思いました。

「アイマス2 2ND PV公開」
真大好きのHyperPと美希大好きなCUTEGPとしては
二人の変化した姿がとっても良かったです。
新曲も5人ライブも、アイドル達の変化した姿もすべて
良かったけどやっぱりこうしてちゃんと続編が
出てくれることかなによりもうれしかったです。

3時間半ぐらい、ほぼノンストップだったけど、
本当にそれが一瞬に思えるほど密度の高く面白い
ライブでした。
来年もやるんだったら、ぜひ行きたいと思いました。
ってかやりますよね?ね?

チケットの予約を次々と失敗してはたんですが、
なんとかやさしい知り合いさんに出会って
二日目のみではありましたが、
2枚を入手することに成功。
ONIGIRISの二人でライブを
見に行くことが決定!w

初アイマスライブということでもかなりわくわくしていました。

二人が幕張メッセに到着したのがライブ開始
2時間前でしたけどもう周りにプロデューサーさんがい
っぱい。
またライブ始まってもないのに振り付けとかやってる
方がたくさんあってすごいなあーと思いました。

物販でCDとか本とかいろいろ購入したり、
飲み物などを買ったりとついでに開始30分前にな
っていざ会場に入場!

会場ではほかのプロデューサーさんたちを見てはじめて
気づいたことはサイリウムって…かなり大量で
用意するべきだったな…ということでした。
キャラクターの色にあわせて1個しか買ってなかったの
うあ迂闊でした。
それでもかなり買っておいだしたと思ったのに…

とまあライブで印象に残ったシーンをいくつか並べると…

「キラメキラリ」
恒例のアイドルマスターの次にいきなりこの曲!
元気になれるけどなぜか疲れてしまう曲という印象
があったけど、今回ははらみーとあさぼんがちゃんと
サポートしてくれて、そんなに疲れませんでした。
聞いていると本当に元気をもらっている気がしました。

「いっぱいいっぱい」
すげえ…律子がマジで目の前にいるみたい…。
若林神マジばねえ。
以上w

アイマスGS落書きマトメ

急にGSで申し訳ございません!!!



最近CUTEGはアイマスGSにはまってます
マジでこれ発売されたらいいからんじやない?…
RELATIONの動画本当にすごいです

アイマスすぎて男の子でも女の子でもかまいません——
ニコ動のいろいろな動画にやられました☆
伊織のてことかマシばねーさや



—JOC—K—K—O—O—E—

YUKI-no-jo-hagi-wara

PROJECT IMOS GS

INTERMEDIA ARTISTS AND SPECIALISTS

DUET結成しちゃいました。
よりに真と雪歩がボーカル。
美希と千早がダンス。



ハートキャッチ大好きだし、
美希と千早大好きだし。
動画マジカッコイイです。

ハートキャッチの Paradise



アイマス2 落書き



あとがき

Hypar

お久しぶりです。Hyparでございます。またもみきまこ本ですけど、個人的に最近みきまこがどんどんお気に入りになっているのでこうしてまた二人の本を出したんですが、やっぱりいいですね。俺の中では真は総受けなわけで…。

あと、アイマス2の美希の紹介文に書いている“肉食系”という響きが非常に気に入ったのでそのコンセプトで無理やり真ちゃんを襲ってしまう美希ちゃん…という内容の本になったわけです。

今年はちょこっとし本出してないけど、来年に2出たらまだがんばりたいですね。

あと、今これ、書いてる時点で竜宮小町のPVが公開されたわけですが、伊織マジかわいいな。次伊織本出したいぐらいかわいいな…

ハアハア…

えっととりあえずこの辺で失礼させていただきます。早く961の新キャラとかを公開されるのを全裸で待っています。

最後にすごく忙しい中、こんなにきれいにかわいく二人を描いてくれたCUTEGさんに大感謝です。マジでお疲れ様でした。次おいしいものでも食べに行きましょう。

それでは、

CUTEG

初めましてこんにちは！CUTEGです！

お久しぶりのアイマス本です。

やった！やっと〆切終わった！ーみたいな感じです。

アイマス2のに萌えすぎてアイマスアイマスアイマスな日々。

真とか美希とか伊織とかあああああああ

かわいいです。めっちゃかわいい。とにかくかわいい。

今回はみきまこの本になりました。

美希も真も可愛すぎてたまらない！

…今眠くてなに書いてるかよくわかりません。

後書まで付き合ってくださいありがとうございます！

ではでは！



I want!
ONIGIRI x
MeSweets 4